

科目名	社会人基礎力講座 I (GCB I)						
科目名(英)	Groval citizen basic I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	寺坂 麻智子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	医療従事者として基礎となる、感謝心と思いやりの心を学ぶ。 医療従事者としての正しい言葉使い、社会人としてのマナーを学び社会人基礎力向上を目標とする。 また医療人としてチーム医療を取るためのコミュニケーション能力を獲得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		グローバル・シティズンとは何かを理解し、自分が恵まれた環境にあることに感謝することができる。	
	○			○		仲間を大切に、共同(協働)の気持ちを持つことの重要性を考え、気づくことができる。	
	○					医療従事者として、正しいことば遣いを理解することができる。	
			○			医療従事者として、立ち振舞の基本と応用を実践することができる。	
○	○					チーム医療の中でより良いコミュニケーションを取るためのマナーを理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	1. GCB I テキスト 2. 教科書:実社会で求められるビジネスマナー(専門教育出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバル・シティズンを目指す・「協働」の態度を持った学生生活			教科書にて復習		
	2	よりよい人間関係の構築に向けてーモラル・ルール・マナーの重要性			レポート提出		
	3	マナーの本質-相手に良い印象を与える・相手に敬意を表する			教科書にて復習		
	4	グローバル・シティズンとしての日常			教科書にて復習		
	5	グローバル・シティズンとしての目標			レポート提出		
	6	接遇の五原則・自己紹介			教科書にて復習		
	7	言葉遣い			教科書にて復習		
	8	言葉遣い			教科書にて復習		
	9	言葉遣い			教科書にて復習		
	10	立ち居振る舞いの基本と応用			教科書にて復習		
	11	電話応対			教科書にて復習		
	12	電話応対			教科書にて復習		
	13	来客応対			教科書にて復習		
	14	手紙の書き方・冠婚葬祭			教科書にて復習		
15	マナー一般			教科書にて復習			
評価方法	成績処理方法: 1.レポート、提出物40(%) 2.定期試験 60(%)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	レポート	◎	○	○	◎		40%
履修上の注意							

科目名	情報処理						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	荻山 裕子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、レポート・発表会資料等の作成時に利活用することができる。文章の入力に関して、5分間で200字以上(3級レベル)の文字入力ができる。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		キーボード入力が正確でスピーディに行えるようになる。(5分間で200字3級レベル程度以上)	
	○	○	○	○		Wordを使用してレポートや論文が作成できるようになる。	
	○	○	○	○		Excelを使用して表計算機能ができるようになる。	
	○	○	○	○		PowerPointを使用してスライド・資料作成ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:30時間でマスター office2019 実教出版企画開発部						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、Windowsの基礎、入力速度チェック				入力練習・復習	
	2	Wordの基礎、文字入力、編集、保存				入力練習・復習	
	3	書式設定、画像、SmartArtグラフィック				入力練習・復習	
	4	表、ページ罫線、タブ				入力練習・復習	
	5	ワードアート、段組				入力練習・復習	
	6	Word復習テスト・他				入力練習・復習	
	7	Excelの基礎、文字・数値の入力、表作成				入力練習・復習	
	8	表作成、四則演算、関数(SUM,AVERAGE,MAX,MIN)				入力練習・復習	
	9	絶対参照、関数(COUNT,COUNTA,IF)				入力練習・復習	
	10	データ分析(並べ替え、オートフィルタ)、グラフ作成				入力練習・復習	
	11	Excel復習テスト・他				入力練習・復習	
	12	キーボード入力の記録会、PowerPointの基礎				入力練習・復習	
	13	スライドの作成、スライドの書式設定				入力練習・復習	
	14	画像等の挿入、画面切替え、アニメーション、リハーサル、資料の作成				入力練習・復習	
15	講義				入力練習・復習		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記/実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記/実技)	○	○	◎	○		60%
	小テスト	○	○	◎	○		40%
履修上の注意							

科目名	生体力学						
科目名(英)	Biomechanics						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松岡美紀・松木直人		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部1年						
授業概要	1. 運動力学の基礎を理解し説明できる。2. 運動の法則、剛体に働く力を説明できる。3. 人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。4. 動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動力学の基礎を理解し説明できる。	
	○	○				運動の法則、剛体に働く力を説明できる。	
	○	○				人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。	
	○	○				動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:プリントを配布します。参考文献:1)中島雅美 中島喜代彦 :PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート 医歯薬出版株式会社、2)物理のエッセンス 力学・波動 河合出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動力学の基礎① 生体力学とは… ・力学の単位				小テスト対策 授業ノート復習	
	2	運動力学の基礎② 力学の構成				小テスト対策 授業ノート復習	
	3	運動力学の基礎③ 力の合成と分解				小テスト対策 授業ノート復習	
	4	剛体に働く力① モーメント(トルク)				小テスト対策 授業ノート復習	
	5	剛体に働く力② てこの種類				小テスト対策 授業ノート復習	
	6	剛体に働く力③ 関節角度と力の関係				小テスト対策 授業ノート復習	
	7	運動の法則① 運動の3つの法則				小テスト対策 授業ノート復習	
	8	運動の法則② 重力加速度と重量				小テスト対策 授業ノート復習	
	9	重心と支持基底面				小テスト対策 授業ノート復習	
	10	姿勢と筋活動				小テスト対策 授業ノート復習	
	11	歩行動作と床反力①				小テスト対策 授業ノート復習	
	12	歩行動作と床反力②				小テスト対策 授業ノート復習	
	13	演習問題・国家試験対策①				小テスト対策 授業ノート復習	
	14	演習問題・国家試験対策②				小テスト対策 授業ノート復習	
15	授業総復習				授業ノート復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	医学英語						
科目名(英)	Medical English						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	リトルアメリカ		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	1. 英語の発話を最大限行う 2. 語彙と文章表現を反復練習し習得する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				英語での会話が自信を持ってテンポよくできる	
	○	○				医療用語を織り交ぜた語彙と文法の正しい使い方を身につける	
	○	○				日常会話の基盤を作りながら医療現場で使える英語を習得する	
	○	○				実際に医療現場で想定される会話をロールプレイ式で実施し、体感として身につける	
テキスト・教材 参考図書	教科書: Challenge Book #4, Medical English Booklet						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Warm Up 1, Self Intro 1, Q&A 1, Vocab 1, CB P.7, Dialog 1				反復練習、英訳課題、構文応用	
	2	Warm Up 1, Self Intro 2, Q&A 1, Vocab 1, CB P.7, Dialog 1				反復練習、英訳課題、構文応用	
	3	Warm Up 2, Self Intro 2, Q&A 1&2, Vocab 2, CB P.8, Dialog 2				反復練習、英訳課題、構文応用	
	4	Warm Up 2, Self Intro 2, Q&A 1&2, Vocab 2, CB P.8, Dialog 2				反復練習、英訳課題、構文応用	
	5	Warm Up 3, Self Intro 2, Q&A 2&3, Vocab 3, CB P.9, Dialog 3				反復練習、英訳課題、構文応用	
	6	Warm Up 3, Self Intro 2, Q&A 2&3, Vocab 3, CB P.9, Dialog 3				反復練習、英訳課題、構文応用	
	7	Warm Up 4, Self Intro 2, Q&A 3&4, Vocab 4, CB P.10, Dialog 4				反復練習、英訳課題、構文応用	
	8	Warm Up 4, Self Intro 3, Q&A 3&4, Vocab 4, CB P.10, Dialog 4				反復練習、英訳課題、構文応用	
	9	Warm Up 5, Self Intro 3, Q&A 4&5, Vocab 5, CB P.11, Dialog 5				反復練習、英訳課題、構文応用	
	10	Warm Up 5, Self Intro 3, Q&A 4&5, Vocab 5, CB P.11, Dialog 5				反復練習、英訳課題、構文応用	
	11	Warm Up 6, Self Intro 3, Q&A 5&6, Vocab 6, CB P.12, Dialog 6				反復練習、英訳課題、構文応用	
	12	Warm Up 6, Self Intro 3, Q&A 5&6, Vocab 6, CB P.12, Dialog 6				反復練習、英訳課題、構文応用	
	13	Warm Up 7, Self Intro 3, Q&A 6&7, Vocab 7, CB P.13, Dialog 7				反復練習、英訳課題、構文応用	
	14	Warm Up 7, Self Intro 3, Q&A 6&7, Vocab 7, CB P.13, Dialog 7				反復練習、英訳課題、構文応用	
15	Warm Up 8, Self Intro 3, Q&A 7&8, Vocab 8, CB P.14, Dialog 8				反復練習、英訳課題、構文応用		
評価方法	(1)授業でChallenge Bookとダイアログの発表 (2)各アクティビティの積極的な取り組み (3)定期試験(筆記)を実施 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	授業中の成果・態度		◎		◎		50%
履修上の注意	毎回、必ず復習をしてきてください。						

科目名	コミュニケーション学						
科目名(英)	communication skill						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高柳 希		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中に発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解することができる	
	○			○		“コミュニケーション”に関して自ら考え、物事を進めていくことができる	
	○		△			多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考することができる	
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献:末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版(株) 山口美和:PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	3	コミュニケーション基礎③ 様々な能力				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	4	対人コミュニケーション① 会話のスタート				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	5	コミュニケーション基礎② ノイズの影響				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	7	対人コミュニケーション③ リスニング				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	9	個人内コミュニケーションと自己概念				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	10	報告・連絡・相談				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	11	対立処理				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	12	パブリックコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	14	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
15	講義				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
評価方法	(1)授業の中で行動習熟度を確認する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	コミュニケーション行動習熟度	◎	◎	◎	○		20%
履修上の注意							

科目名	解剖学 I						
科目名(英)	Atlas of Human anatomy						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	峰岡 哲哉		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	身体構成の基礎となる用語を学び、理学療法士になるための基礎医学の知識を修得する。 身体構成を理解するには、まずは解剖用語を覚えることが必須。講義と課題、区分ごとに小テストを実施する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体の全体構成を理解でき、体表区分を説明できる。	
	○	○				主な内臓器の名称を記載できる。	
	○	○				消化器の流れを専門用語で説明できる。	
	○	○				感覚器の構造とつながりを説明できる。	
						該当する範囲の国家試験が理解できる。(70%以上)	
テキスト・教材 参考図書	PT OT STのための解剖学 解剖学ノート						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 体表区分と身体解剖の基本的用語の理解			オリエンテーション 楽しく解剖 学習ノートを準備		
	2	各臓器の名称と構造の理解			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	3	骨の各論 上肢			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	4	骨の各論 下肢			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	5	人体骨格のまとめ			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	6	関節の構造と運動			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	7	筋の構造と収縮形態			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	8	循環 心臓の解剖			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	9	動脈系の解剖			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	10	静脈 リンパ系の解剖			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	11	呼吸器系の解剖			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	12	呼吸循環のまとめ			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	13	消化器系の構造とつながりの理解			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	14	泌尿器系の解剖			講義後、内容を国家試験問題や解剖ノートで学習を図る		
	15	まとめの講義			全体の理解を国家試験問題で確認する		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	課題 小テスト	◎	◎				30%
履修上の注意	身体に興味を持ち、覚えることから進めなくてはならない。医療職への入り口として意欲的に取り組む必要がある。						

科目名	生理学 I						
科目名(英)	Physiology						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	田中知子・木村孝・熊丸真理		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる。 人体の各器官の正常な機能が説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる。	
	○	○				人体の各器官の正常な機能が説明できる。	
	○	○				該当する分野の国家試験問題が理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:PTOT 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 執筆:岡田隆夫 長岡正範 参考資料:授業時に資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞の構造と機能				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	2	神経の興奮伝導と末梢神経①				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	3	神経の興奮伝導と末梢神経②				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	4	中枢神経系①				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	5	中枢神経系②				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	6	神経系の復習				前半部分の復習と確認	
	7	心臓と循環①				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	8	心臓と循環②				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	9	呼吸とガスの運搬①				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	10	呼吸とガスの運搬②				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	11	尿の生成と排泄				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	12	内分泌				生理学テキストにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。	
	13	国家試験問題(グループ学習)				国家試験問題の解説	
	14	国家試験問題(グループ学習)				国家試験問題の解説	
15	全範囲のまとめ				総まとめと試験範囲確認		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	運動学 I						
科目名(英)	KINESIOLOGY						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	園田剛之・仲吉功治		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	基本的な身体運動基礎の理解より開始し、骨格・関節・靭帯の構造を理解する。 理学療法士の評価治療介入の基礎となる身体運動の知識(上肢)を修得し、上肢の各関節運動を各自で説明できることを目標とする。また、講義内容に対する理解度を国家試験問題も含め、確認を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体運動の方向と運動名称について説明できる。	
	○	○				基本的な骨格系の構造や名称を説明できる。	
	○	○				上肢各関節の構造・運動について説明できる。	
	○	○				該当する範囲の国家試験が理解できる。(70%以上)	
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一 他 著:基礎運動学 第6版 補訂 2)山崎敦 著:PTOTビジュアルテキスト 運動学 第1版 3)河合良訓 監:骨単(語源から覚える解剖学英単語集)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 運動学の概要 (運動用語の理解、運動面と軸との関係)				シラバス内容を事前に確認しておくこと	
	2	運動の基礎 筋の起始停止 作用の理解 関節構成体 関節形態と運動方向の関係 主な関節の関節形態の確認				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	運動学 概要と基礎の復習 ここまでのテスト 骨格系①:総論、頭蓋骨 骨格系②:脊柱・胸郭				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	骨格系③:上肢帯の骨 骨格系④:下肢帯の骨				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	骨格系の復習 ここまでのテスト 関節と靭帯:総論 上肢帯・下肢帯の連結				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	肩関節 肩甲上腕関節 肩関節の概要(ショルダーコンプレックス) 肩甲上腕関節 (安定要素 運動にかかわる筋)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	広義の肩関節 各関節の形態と特徴 肩甲上腕リズム				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	肩関節のまとめと復習 肩関節のテスト				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	肘関節 肘関節の解剖形態 各関節の形状と安定要素 前腕 前腕の運動を導く関節の理解 安定要素と運動要素				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	肘、前腕のまとめと復習 肘前前腕のテスト				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	手関節 手関節の関節構造の理解 安定要素と運動要素				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	手指の動きと 腱鞘の理解 手関節と手指のまとめとテスト				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	国家試験問題				これまでの授業資料を復習しておくこと	
	14	国家試験問題				これまでの授業資料を復習しておくこと	
15	全体復習とまとめ				これまでの授業資料を復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	各期間でのテスト	◎	◎				30%
履修上の注意	身体の運動への興味を持つ事。基本的な身体構造を自ら覚える取り組みが必要。						



科目名	基礎医学講座 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	中島 雅美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	国家試験問題を実際に解きながら、専門用語とその内容を一つ一つ理解し、説明できる。 前期解剖学・生理学の復習						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				国家試験問題を通して神経構造・機能が理解できる。	
	○	○				国家試験問題を通して中枢神経構造・機能が理解できる。	
	○	○				国家試験問題を通して、骨、関節の構造、機能を理解できる。	
	○	○				国家試験問題を通して、四肢体幹の構造・機能を理解できる	
テキスト・教材 参考図書	メディカルイメージブック解剖学 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	国家試験とは？オリエンテーション				国家試験問題を解き、説明しあう	
	2	動物機能 中枢神経系① 神経の基本構造、神経伝導の原則				国家試験問題を解き、説明しあう	
	3	動物機能 中枢神経系② 大脳について				国家試験問題を解き、説明しあう	
	4	動物機能 中枢神経系③ 大脳基底核・辺縁系について				国家試験問題を解き、説明しあう	
	5	動物機能 中枢神経系④ 脊髄について				国家試験問題を解き、説明しあう	
	6	動物機能 中枢神経系⑤ 錐体路について①				国家試験問題を解き、説明しあう	
	7	動物機能 中枢神経系⑥ 錐体路について②				国家試験問題を解き、説明しあう	
	8	動物機能 中枢神経系⑦ 上行性伝導路について①				国家試験問題を解き、説明しあう	
	9	動物機能 中枢神経系⑧ 上行性伝導路について②				国家試験問題を解き、説明しあう	
	10	植物機能 呼吸・循環① 心臓について				国家試験問題を解き、説明しあう	
	11	植物機能 呼吸・循環② 呼吸について				国家試験問題を解き、説明しあう	
	12	運動機能 骨関節① 上肢				国家試験問題を解き、説明しあう	
	13	運動機能 骨関節② 下肢				国家試験問題を解き、説明しあう	
	14	運動機能 骨関節③ 体幹				国家試験問題を解き、説明しあう	
15	国家試験問題解説・総復習				国家試験問題を解き、説明しあう		
評価方法	(1)課題ノートで評価する。(2)筆記試験にて評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 基準は具体的に提示する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題ノート(調べ学習用)	◎	◎				40%
	定期テスト	◎	◎				60%
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	富永 明子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。また、卒業後の現場において臨床心理学の知識を活かしていただけるために、他者とのかかわりや自分自身についての思考・感情・言動を振り返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		対象者への援助の方法やその実践について基礎的な知識・技法を説明できる。	
	○	○		○		臨床心理学の知識を臨床に応用する為の方法を説明できる。	
	○	○		○		他者や自分自身を振り返る機会とし、自己認識した内容を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:「心とかかわる臨床心理 基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫(著) ナカニシヤ出版 参考文献:「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 渡邊映子・勝倉孝治編集 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション・臨床心理学とは				教科書の予習をしておく。	
	2	人格理論①:精神分析理論、分析的心理学				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	人格理論②:自己理論、自己愛理論				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	発達理論①:分離-個体化理論、対象関係論				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	発達理論②:心理・社会的発達理論				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	心理アセスメント①:アセスメントとは、発達検査、知能検査				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	心理アセスメント②:人格検査(質問紙法)				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	心理アセスメント③:人格検査(投影法)、その他の検査				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	心理療法①:基本的態度、クライエント中心療法				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	心理療法②:精神分析療法、分析的心理学療法				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	心理療法③:遊戯療法、芸術療法				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	心理療法④:森田療法・家族療法				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	心理療法⑤:行動療法、認知行動療法				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	心理療法⑥:自律訓練法、集団精神療法				教科書の予習をし、プリントにまとめておくこと。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	全体復習				全体の復習を行います	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション概論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	山下 慶三		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	リハビリテーションという言葉は、一般社会でもよく使われるようになってきている。通常、障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域となっている。リハビリテーションにおける理念・背景をリハビリテーションの特徴を含め紹介する。また近年のリハビリテーションの展開についても紹介していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本校の育成人材像を把握し、カリキュラムの構成、学習の流れを理解する	
	○	○		○		リハビリテーションの定義と歴史を含んだ語源を説明できる	
	○	○				リハビリテーションの分野と関わる期の特徴と理学療法士としての役割を説明できる	
	○	○		○		ICFについてICIDHと比較して特徴と相違について説明できる	
	○	○				他職種連携の意味と重要性をそれぞれの職種の役割を踏まえて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)リハビリテーションの思想 第2版 人間復権の医療を求めて 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・本校のカリキュラムポリシー			学生便覧を使用します。		
	2	リハビリテーション医学の歴史的背景、語源および基礎			教科書を読み理解を深めてください。		
	3	リハビリテーション医学の目的、対象、方法・障害の理解			教科書を読み理解を深めてください。		
	4	予防医学の分類・障害の捉え方、ICIDHとICFについて			配布資料の内容について、教科書を読みなおし理解を深めてください。		
	5	障害の捉え方:ICIDH			配布資料の内容について、教科書を読みなおし理解を深めてください。		
	6	障害の捉え方:ICF			配布資料の内容について、教科書を読みなおし理解を深めてください。		
	7	リハビリテーションの分野 ~ 例 骨関節障害領域 ~			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	8	廃用症候群			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	9	リハビリテーションの関わるステージと役割			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	10	多職種連携①:作業療法士・言語聴覚士 他			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	11	多職種連携②:医師・看護師 他			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	12	リハビリテーション医学 まとめ ①			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	13	リハビリテーション医学 まとめ ②			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	14	世界のリハビリテーションの現状 ~ 特別講義 ~			講義後の感想をレポートとして提出予定です。		
15	これから理学療法士を目指すにあたって大事なこと			これまでの学習内容のまとめとして再度復習を行います。配布資料を持参してください。			
評価方法	(1)定期試験(筆記試験)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				70%
	レポート	○			○		30%
履修上の注意							

科目名	理学療法学概論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	筒口さゆり・熊丸真理		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	①理学療法士についてその歴史や関係法規・諸制度を知り、自分の言葉で説明できる。 ②理学療法士の位置づけ、役割、対象疾患、関連職種などを理解し、リハビリテーション活動に参画する一専門職としての役割を説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○	○	○		医療の中の理学療法の位置づけを説明できる。	
	○	○	○	○		理学療法の視点から、障がい者の日常生活上のデメリットを説明できる。	
	○	○	○			理学療法の評価・治療の流れを説明できる。	
	○	○		○		今後の理学療法に必要なことをディスカッションできる。	
テキスト・教材 参考図書	PTOTビジュアルテキスト 理学療法概論 課題動画を使ってエッセンスを学びとる						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	対人援助の仕事とは 指導と援助				受講内容をレポートしてまとめる	
	2	理学療法総論 理念・歴史・概要・関係法規・諸制度				受講内容をレポートしてまとめる	
	3	理学療法士が出来る事、運動療法体験				受講内容をレポートしてまとめる	
	4	理学療法士への志 理学療法士を目指す皆さんへ				受講内容をレポートしてまとめる	
	5	理学療法士への志 理学療法士を目指す皆さんへ				受講内容をレポートしてまとめる	
	6	理学療法士 対人援助職としてのコミュニケーション				受講内容をレポートしてまとめる	
	7	障害を知る(脳機能) 動画視聴より理解				受講内容をレポートしてまとめる	
	8	理学療法の介入を知る 動画視聴より理解				受講内容をレポートしてまとめる	
	9	理学療法の対象(対象となる障害を知る)				受講内容をレポートしてまとめる	
	10	理学療法の流れ(PTプロセスとは?)				受講内容をレポートしてまとめる	
	11	理学療法の介入方法				受講内容をレポートしてまとめる	
	12	白衣を着る意義を考える				受講内容をレポートしてまとめる	
	13	障害の構造を考える				受講内容をレポートしてまとめる	
	14	理学療法士役割を考える				受講内容をレポートしてまとめる	
15	まとめ テーマ:3年後の自分 * 定期試験実施要項				これまでのレポートを復習しておくこと		
評価方法	(1)毎回のレポート提出にて評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート提出	◎	◎		○		80%
	実技の取り組み			◎			20%
履修上の注意							

科目名	評価学 I						
科目名(英)	Evaluation of Physical Therapy I						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	山口 寿 筒口さゆり		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	①理学療法評価の項目と内容(意味)と必要性について述べ、各検査・測定項目について正確に実施することができるようになる。②測定結果よりその障害像について考察することができるようになる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				対象者の何を評価するのかを知り、理学療法評価の意味、理学療法プロセスの流れを理解する。	
	○	○	○	○		情報収集の目的と内容を知り医療面接ができるようになる。	
	○	○	○			バイタルサインの目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
	○	○	○			形態測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
	○	○	○			関節可動域測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)潮見泰臈, 下田信明:リハビリテーション基礎評価学第2版. 基礎運動学 第6版 齋藤 宏・中村隆一著 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	評価総論① オリエンテーション 評価とは・・・検査・測定について考える。PBL			教科書の確認をしておく。		
	2	評価総論② 検査・測定の意義・目的と評価の構成要素			教科書の予習をしておく。 授業復習しておく。		
	3	生理機能評価(バイタルサイン)① 基本的知識と測定する意味を考える。 バイタルサインの測定方法と記録			教科書の予習をしておく。 授業復習しておく。		
	4	生理機能評価(バイタルサイン)② 実技・演習			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
	5	形態測定① 形態測定とは 四肢長(骨のラウンドマーク確認)実技			教科書の予習をしておく。 授業復習しておく。		
	6	形態測定② 形態測定(周径)実技			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
	7	形態測定③ 形態測定 演習(知識の整理)			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
	8	関節可動域測定 ① (解剖学的知識、関節構造、運動学の知識の統合)			教科書の予習をしておく。 授業復習しておく。		
	9	関節可動域測定 ②上肢 実技(肩甲帯・肩・肘・手指)			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
	10	関節可動域測定 ③上肢 演習(知識の整理)			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
	11	関節可動域測定 ④下肢実技(股・膝・足)			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
	12	関節可動域測定 ⑤下肢 演習(知識の整理)			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
	13	関節可動域測定 ⑥頸部・体幹実技(股・膝・足)			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
	14	関節可動域測定 ⑦頸部・体幹 演習(知識の整理)			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
	15	OSCE説明 演習			前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。		
評価方法	(1)授業の演習で小テストを実施する。(2)OSCE(客観的臨床技能試験)を実施 (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	小テスト		◎				20%
	実技試験	◎	◎	◎			30%
履修上の注意	実技は実習着もしくは所定の服装で臨む						